第２回みやぎ観光振興会議登米圏域会議　概要

（１）圏域の観光の現状

○　飲食，宿泊，サービス業すべてコロナの影響大。タクシー業界は維持がやっと。生き残れるか。

○　大震災前と比し統計的には観光客入込数が増えているが，地元事業者にはそうした実感はない。

○　滞在型ではなく，通過型観光客がほとんど。風土マラソン等のイベント参加者も来て帰るだけ。

○　大手旅行代理店の社員が登米市のことを知らない。知っていても明治村と，話題になった長沼。

○　大手旅行代理店と契約している観光施設がない。JTB で契約している施設はルートイン登米のみ。

○　以前は大型バス観光が主だったが，最近は中型バスの申し込みが増えている。少人数化している。

○　宿泊観光客がほとんどなく，ビジネス客が主。加えて帰省客，冠婚葬祭に来た人が泊まる程度。

（２）圏域の観光の課題

○　風土マラソンやはっとフェスティバル等のイベントに来る人たちを，どのようにして登米市内の観光に繋げていくのか。二次交通を含めて，点と点を結ぶ仕組みづくりが必要。

○　自然や公園を生かしつつ，キャッシュポイントを考慮した観光地づくりが必要。

○　登米市の観光振興を自分事として考えられる人材の育成，市民それぞれが登米市の魅力を再確認する機会の創出，また，それらをコーディネートしまとめられるリーダー，牽引役が必要。

○　登米市の認知度が低く，効果的に魅力を発信していくことが必要。

○　登米市の観光，観光地づくりの方向性等をいま一度，市民を挙げて議論する必要がある。

（３）圏域の観光の方向性・具体的な取組等

○　イベント参加客等の観光地等への二次誘導について

　風土マラソン等のイベント参加者を市内観光地等へ誘導し，また，市内宿泊者の増加に繋げるため，登米市産の食，飲が楽しめる，農業，林業体験もできる魅力的な滞在型観光コンテンツ等の造成と充実を図るとともに，二次誘導のための仕組みづくりを行う。

○　「みやぎの明治村」の観光振興について

　登米市の中核的な観光地である「みやぎの明治村」は，観光客が最盛期から大きく減じていることから，魅力の再発信と受入体制整備，魅力的なコンテンツ整備を図る。

○　ＮＨＫ連続テレビ小説「おかえりモネ」の活用について

　ＮＨＫの連続テレビ小説「おかえりモネ」のロケ地という絶好の機会を生かし，気仙沼市と一体となって効果的なプロモーションと観光振興を図る。

○　観光振興リーダー等の設置，育成について

　登米市の観光地づくりについて，一元的にコーディネートできるリーダー的な人材，組織を育成していく。